

ヨハネの福音書 第15章 5節

「わたしはぶどうの木で、あなたがたは枝です。人がわたしにとどまり、わたしもその人の中にとどまっているなら、そういう人は多くの実を結びます。わたしを離れては、あなたがたは何もすることができないからです。」

あるクラスを数か月間経過したところで、学生が言った言葉が印象に残っている。学んでゆくなかで、神さまがより身近に感じられるようになったと言うのです。生活のなかで起こる様々な事柄を通して、学んでいる神さまのみことばがいのちをおびていることの実感からの言葉ではないかと思う。他の学生たちもうなずき共感している。それほど神さまは近くにおられる。

特に、日常における危機、非日常的な事態に直面するときこそ、神さまの近さがリアルになる。それも、普段の歩みのなかで共なるお方を知っているからこそである。危機において神さまが近くにおられる実感は、日常において近いお方を知っているから生まれる近さである。

このヨハネが残した主イエス・キリストのことばは、主が世を去るときの説教の一部である。語られるのは主との絆であり、それにより結ぶ実の約束である。この関係無くしてあなたがたは何もできないと言われる。主の近さ、絆を生きる勧めがある。

2024年6月15日